



AREA WEB



令和6年11月15日 発行
峡東教育事務所
教育支援スタッフ (担当)
電話 0553-20-2731
Fax 0553-20-2733

PDF版はこちら

峡東教育事務所のHPに掲載中！
「エリアウェブ」で検索



「燈火親しむべし」～秋の夜長に読書を～

山梨県教育委員会 峡東教育事務所 副所長 宮本 和仁

6割の人が1カ月に1冊も本を読まない。そんなデータが、文化庁が実施した2023年度の「国語に関する世論調査」で明らかになりました。毎年行われるこの調査ですが、2008年からは1か月に読む本の冊数についての質問を5年ごとに実施しています。前回2018年度は「1冊も読まない」人が47.3%、その前は46%台でした。つまり、この5年で本を読まない人が急に15.3ポイントも増えたこととなります。調査では、読書量が減ったかどうかを聞いていて、69.1%、7割程度の人が「読書量が減った」と答えています。その理由としては、これまでは「仕事・勉強で多忙」がトップでしたが、今回は「スマホ・タブレットなどに時間が取られる」が初めてトップになりました。年代別では、10～20代は「スマホ・タブレットなど」が減少要因のトップで、30～40代では「仕事・勉強で多忙」が最多、50代以上になると「視力低下など健康問題」を挙げる人が増えています。これらのことから、どの年代でもまんべんなく読書離れが進んでいることがわかりました。確かに最近、家の近くにあった本屋がなくなり寂しさを感じていましたし、わからないことがあると何でもすぐにネットで検索し、本で調べることが随分減ったと自分自身も感じてはいましたが、どの年代でも「読書離れ」が大きく進んでいるというのは、かなりの衝撃でした。

ところで、文部科学省が小学校6年生と中学校3年生を対象に実施した、2024年度の全国学力・学習状況調査の結果では、中学国語の平均正答率が

58.4%と、前年度の70.1%から10ポイント余り下がり、過去最低となりました。文科省は「必要な情報を取り出したり目的に応じた表現の効果を考えて説明したりすることに課題が見られた」「出題内容は毎年異なり、過去との単純比較は適当でない」と分析しましたが、「スマートフォンなどSNSの普及で、子供たちが短文でのやり取りが広がる一方、長い文章を読んだり、書いたりする機会が減っている。子供たちが活字に向き合う環境を整える必要がある」など、新聞等では読解力不足の背景として、SNSの影響を指摘するものが多くありました。全国学力調査と同時に実施されたアンケートでは、小学生の2割、中学生の3割が1日3時間以上、SNSや動画視聴をしていると回答しており、こうした児童生徒は、勉強時間が短く、就寝時間なども不規則であることがわかっています。

さて、9月より今月末にかけて、学校訪問をさせていただいております。学校の中に入ると、「先生や図書委員によるお薦めの本の紹介」や「家読(うちどく)」「読書郵便」「教科学習と関連する本の特設コーナー」「ボランティアによる読み聞かせ」「ブックトーク」など、各校で子供たちに本に親しませる取組やさまざまな工夫が実践されているのが伝わってきました。

「燈火親しむべし」、秋の夜長にみんなで読書を。



副所長 宮本 和仁 氏
平成2年、一宮南小学校教諭として教壇に立つ。富士見小学校・境川小学校教頭、義務教育課管理主事、御坂西小学校校長を経て、令和6年度から峡東教育事務所に勤務。趣味は、庭いじり。

「探究的な学びにつながる科学体験」～小学生科学教室・サイエンスステップ～山梨県立日川高等学校

7月20日に日川高校において、「第12回小学生科学教室・サイエンスステップ」が行われました。約70名の小学生が参加し、高校生とアシスタントとして参加した中学生と一緒に、科学について学ぶ体験を行いました。物理・地学・数学・生物・化学・社会・国際・スポーツの8分野14講座があり自由に体験することができます。各講座には「中生代へタイムスリップ!」「オーシャンボトルを作ろう!」「七夕人形を作ろう」「National Flagに挑戦してみよう」など小学生の興味を引きそうなタイトルがつけられています。



ダイラタンシー現象の実験

開会行事に続いて、科学教室が始まりました。スポーツ科学分野「握力計をつくろう!」講座は、アルキメデスの原理を応用して、ペットボトルで握力計を作っていました。好評につき終了前に材料がなくなってしまいました。

高校での学びは、自ら課題を設定し、主体的に判断し、よりよく問題を解決する力を身につける探究的な学習が求められています。小学生の皆さんが、今回の講座の中で「なぜ?」「どうして?」と疑問に思ったことから、探究的な学びの入り口を体験することができたのではないのでしょうか?

小学生からは「チリメンモンスター(チリメンジャコの中に混ざっている小さな生物)を探すのが楽しかった。タツノオトシゴが出てこなかった。」「数学が好きなので、4つの数字を計算で組み合わせて10を作るゲームが楽しかった。」などの感想が出ました。

中学生の中には、小学生の時に科学教室に参加して、今回はアシスタントとして参加した人もいました。感想を聞いたところ、「小学生のときはただ楽しいだけだった。今回は科学の原理も知ることができ、より一層楽しむことができた。」「小学生に教えるのが難しいと思った。高校生は説明の仕方が上手だけでなく、小学生がより興味を持てるような進め方が上手だと思った。」「異なる年齢の人たちと一緒に行動するうえで、今日の経験がとても役に立つと思う。」などの意見が聞かれました。



読み札に書かれた数値から計算式を選ぶかるた



チリモン ゲットだぜ!



夏休み小学生企画～山梨高校美術部ポスター教室～ NPO法人すてっぴ・あっぴる 県立山梨高等学校美術部

すてっぴ・あっぴるは、甲州市を拠点に子育て支援活動を行っているNPO法人です。毎年夏休みには夏休み小学生企画として、いくつもの講座が開かれています。



会場の勝沼市民会館
大会議室は大賑わいでした

今回は8月6日に行われた「夏休み小学生企画：山梨高校美術部ポスター教室」にうかがいました。当日は甲州市ばかりでなく、山梨市や笛吹市からも小学生が集まり、21名が参加しました。参加した小学生に参加理由を聞いてみると「教えてもらった方が上手にかけると思った」「色使いを学びたかった」などの発言がありました。みんな積極的です。

講師は山梨高校美術部の先生と美術部員14名。先生が全体を指導しつつ、部員の皆さんが小学生一人ひとりに指導していました。

美術部員の高校生も、普段小学生と接する機会がなかなかないので、始まる前はうまくコミュニケーションがとれるか心配していました。しかし、実際に指導が始まると、鉛筆での下描きの描き方や絵の具の使い方など、日々の部活動によって身についた知識や技能を、小学生に伝えていました。

指導を終えた高校生に感想を聞いてみると、「小学生が入賞をめざし、こだわりをもって取り組んでいたのが、とても教え甲斐があった」「こちらの指導を素直に聞いてもらえてよかった」などと答えていました。なかには高校生も感心するような絵を描くことができる小学生も参加しており、お互いに刺激合っていました。



色の混ぜ方を教わっています



指導のおかげで満足な作品ができました

石和八幡宮二十日祭に向けての交流会 笛吹市立石和南小学校・県立笛吹高等学校すいれき太鼓部

石和南小ではクラブ活動のひとつとして、「御陣屋太鼓」の取り組みが行われています。今年も4～6年生の33人が参加し、クラブ活動の時間だけではなく、団長・副団長・ソロ・指揮者などのリーダーが中心となり、休み時間などにも自主的に練習を行っています。

毎年8月20日に行われる石和八幡宮の二十日祭で、「笛吹川」と「御陣屋太鼓」の2曲を披露します。今年度は夏休み中の8月19日に、指導者の望月健士郎先生と笛吹高校のすいれき太鼓部を迎え、石和南小体育館で交流会が行われました。

はじめに、笛吹高校の部員が1曲演奏してくれました。炎（えん）という曲で、22日に行われる第14回関東地区高等学校和太鼓選手権で演奏予定の曲だそうです。表現力が高く、迫力満点の高校生の演奏に、石和南小の児童は多くの刺激を受けていたようでした。そのあと、高校生が打ち方の基本や腰の落とし方などについて、小学生一人ひとりに丁寧に指導しました。指導の後では御陣屋太鼓の音の響きが劇的に変わっていました。



高校生の演奏に圧倒されました



高校生の指導で音がかわってきました

団長を務める6年生の町田悠羽奈さんに、日頃の活動で苦勞した点や二十日祭に向けての意気込みを伺うと、「練習の時はみんなの意見をまとめたり、みんなにわかりやすく伝えたりすることとても苦勞しました。二十日祭では今まで練習してきた成果を出し切り、いい演奏だったと思える本番にしたい」と力強く語っていました。二十日祭ではその言葉通りの素晴らしい演奏が披露され、会場からは大きな拍手が響き渡っていました。また、笛吹高校すいれき太鼓部は関東地区高等学校和太鼓選手権で金賞を受賞されました。



指揮者にあわせて全体練習



「お仕事体験してみよう！」～笛吹子どもチャレンジ2024夏～ 社会福祉法人笛吹市社会福祉協議会

8月27日に笛吹市社会福祉協議会の主催で、シャトレーゼホテル石和にて、お仕事体験してみよう！～笛吹子どもチャレンジ2024夏～が開催されました。保護者からの「子どもに職業体験の機会がほしい」という思いに応え、笛吹市社会福祉協議会が笛吹市を中心とする事業所等と協力して、今年初めて開催されることになりました。小学校4～6年生43人が参加しましたが、申込初日のうちに定員に達してしまうほどの人気だったそうです。

当日はロボット製作、建築デザイン、薬剤師、看護師、美容師、印刷デザイン、消防士、警察官、福祉相談員の9つのブースが用意されていました。参加者は5人ずつのグループに分れ、3～4種類の職業を体験しました。30分という限られた時間ではありましたが、各ブースで工夫がされており、それぞれの職業の内容は多岐にわたる中で、その一部をしっかりと体験できるものでした。



看護師の体験（血圧計）

また、ただ体験するというだけではなく、「お客様の希望」を結果として表すといった、まさに「お仕事」としての側面を強く意識したブースもありました。働くということはどういうことなのかを、小学生の参加者が考える上で非常に有意義な会となりました。

参加した方々に感想を聞きました。「将来は警察官になりたいという目標を持っています。大変だと思いましたが、社会の平和のために頑張っているということを知りました。」「楽しかったです。友達に誘われてきました。二人ともまだ将来やりたい職業は定まっていなくて、勉強になると思い参加しました。今回の体験はとても参考になりました。」

キャリア教育の重要性が高まっており、高校生・大学生のインターンシップが必須と言われる現在、こうした取り組みは今後ますます必要になっていくだろうと思います。小学生のうちから様々な職業の内容を知り将来を考えるきっかけにしてもらいたいという主催者の思いが込められていました。



美容師のバリカン体験



警察官の数ある業務の中から鑑識体験

水と自然と私たちのつながりについて学ぶ～サントリー次世代環境教育「水育」～甲州市立塩山北小学校

塩山北小学校の4年生が「水育」に取り組みました。「水育」とはサントリーが実施する子どもたちに向けた環境教育プログラムです。「水育」には自然体験プログラム「森と水の学校」と学習プログラム「出前授業」がありますが、塩山北小が取り組んだのは「出前授業」です。「出前授業」は学校の先生による授業1と水育講師による授業2と事後学習のホームワーク・アクティビティの3つで構成されています。今回は9月5日に行われた授業2を取材しました。

2日前に担任の先生によって授業1が行われ、児童たちは水循環について学び、水は地球を旅していることや、私たちの生活が水循環に影響していることについて考えました。授業2の始めにその振り返りとして、家庭や自分自身が汚れた水で川や海を汚さないことや、水の無駄遣いを防ぐためにどのような工夫をしているかを意見交換しました。

いよいよ本題です。森には「水を蓄える」「水をきれいにする」の2つの働きがありますが、どの森もその働きを持っているわけではありません。児童たちはA、B2つの森の写真を見てどちらの森がその働きを持っているのかを議論しました。2つの森には木の高さや明るさなどさまざまな違いがありましたが、講師の先生は土の違いについてお話を始めました。実際に2つの土に触れてみると、Aの森の土の方が柔らかく、植物の破片も見えてきました。その後、実験によりAの森が2つの働きを持っていることが確認できました。さらに、Bの森をAの森のように変えることはできるのかについても議論をしました。



実際に触れることで発見があります



AかBか さあどっちかな



実験装置をみんなで見えています

最後に、昔の人たちが自然や水を守ってきたから、今の自分たちが水を使うことができるということ、未来の水のために今の自分に何ができるのかを考えてほしいという言葉で授業が締めくくられました。

目標や夢があるからまっすぐ歩いていける～アスリート派遣事業～甲州市立井尻小学校・山梨県立ろう学校

9月6日にアスリート派遣事業として、デフリンピック日本代表史上初のプロスポーツ選手である高田裕士選手が井尻小学校を訪れました。デフリンピックとはろう者のためのオリンピックのことです。高田選手の専門は陸上競技の400mハードルです。昨年開催されたアジア太平洋デフ陸上競技選手権大会では、金メダル2個、銀メダル1個を獲得しました。



スタートランプに集中

当日は井尻小学校1～3年生24人に加え、ろう学校の小学部の13人が参加しました。始めに高田選手から「耳の聞こえない人とは、手話、筆談、口話などを用いて話をします。みんなも、耳の聞こえない人と出会ったら、積極的に話をしてほしい。ぼくのお話を聞いたら、表情や身振りで反応してください。うなずいたり、手でマルやバツを作って答えたりしてほしい。」というお願いがありました。



高田選手のように跳べるかな

陸上競技では、耳が聞こえない人はピストルの合図でスタートをすることができないので、かわりにスタートランプを使います。赤・黄・緑と変化するランプが緑になったらスタートです。井尻小の子どもたちは音を聞いて走るのに慣れていないため、うまくスタートを切ることができません。また、ろう学校の子どもたちも初めて使うスタートランプに苦戦していました。

続いて、ハードルを跳んでみました。高田選手から「ハードルを跳ぶときは、上に跳ぶのではなく、前に向かって跳ぼう。」などとアドバイスを受けて、子どもたちはどんどん上手にハードルを跳べるようになっていきました。

最後に高田選手から「2025年にデフリンピックが東京で開催されます。そのことをおうちの人と話をしてください。選手たちを応援してください。」との話があり、「がんばる」「はくしゅ」「おうえん」の3つの手話が紹介されました。子どもたちも覚え立ての手話で高田選手を応援していました。お話は「ぼくは来年のデフリンピックで金メダルをとりたい。みんなも夢や目標に向かってがんばってほしい。」との言葉で締めくくられました。



目標や夢があるからまっすぐ歩いていける

狂言鑑賞教室～日本の伝統文化を見て聞いて体験する～

笛吹市立石和東小学校

9月10日に石和東小学校で狂言鑑賞教室が行われました。今回は徳川幕府の式楽の伝統を継承する大蔵流狂言の山本家から、山本則重さん、山本則秀さん、若松隆さんが講師としてお見えになりました。

はじめに、狂言の舞台には大道具も照明もないことや、演者が所作や発声でさまざまなことを表現する『型』があることを聞きました。その後、6年生の教科書にも掲載されている『柿山伏』を鑑賞しました。動物の鳴き真似のシーンでは笑いもおこっていました。

後半は型の体験をしました。立つ型・座る型から始まり、歩く型や走る型、笑う型や泣く型を講師の先生とやってみました。講師の先生は「外国に行くと『歩き方の芸術』と言われることもある。私たちは歩くことをとても大切にしている、それをきれいにさせるために毎日稽古を行っています」とおっしゃっていました。体験の後には、石和ゆかりの『鶉飼』の小舞を鑑賞しました。

まとめのお話として「海外に行って感じることは、外国の方はそれぞれの国の歴史や文化をとてもよく知っています。日本人は日本の歴史や文化について話すのが苦手ですが、『日本にはどんな文化があるの』と聞かれたら、『能や狂言、文楽や歌舞伎、落語などの伝統芸能があります』と自信を持って答えられる人が多くなってほしい」と語られました。石和東小のみんなに深く伝わったと思います。

最後に代表児童が「初めて見ました。歩き方や話し方に特徴があって面白かった。1本の扇子でさまざまな表現ができることがとても興味深かった。実際に歩き方や話し方を体験してみて、難しかったが楽しかった。」と感想を述べていました。



山伏と柿の持ち主との掛け合い



体育館全体を使って走る型のお稽古



泣いている型のお稽古 笑っている人いませんか

音の仕組みを学び音楽の楽しさを深める～芸術ワークショップ～

山梨市立八幡小学校

10月10日に八幡小学校で、芸術鑑賞会としてアンサンブル・ルヴァンの演奏会が全校児童を対象に行われました。それに先立ち、9月19日にルヴァンの金管楽器奏者5名の方が来校し、5、6年生を対象に芸術ワークショップが行われました。

ピカピカの楽器を手に奏者の皆さんが音楽室に入ってくると、児童たちは目をキラキラと輝かせていました。『水上の音楽』に続けてオッフェンバック作曲『天国と地獄』が演奏されました。ちょうど同校では運動会の練習期間中だということで、急遽楽譜を準備して演奏していただきました。



ホースに振動が伝わってきます

ここから少しお勉強です。楽器の音は空気の振動であるということを確認するために、チューバの管の長さと同じ長さのゴムホースを吹いてもらいました。みんなでホースをつかんで、高い音の時は細かく、低い音の時はゆっくりと振動することを確認しました。さらにホースで童謡の『ぞうさん』を演奏してもらいました。実は、ホースだけで演奏ができるわけではなく、ホースにチューバのマウスピースをつけていました。

みんなでトランペットのマウスピースを体験しました。音を出すのが難しいですが、中にはコツがつかめたか、音が出る人もいます。そんな人には楽器をつけて音を出してもらいました。初めてとは思えないしっかりと音を出す人もいました。

金管楽器の音の仕組みもわかったところで、演奏再開です。いつもは楽団を支える役目のチューバを主役にした『チャルダッシュ』が演奏されました。大きなチューバが素早く細かい音を演奏する様子にみんなびっくりしていました。最後は『水上の音楽』と同じ作曲家ヘンデルの『ハレルヤ・コーラス』に『聖者の行進』をあわせた『セイント・ハレルヤ』で締めくくられました。

ワークショップを経て、芸術鑑賞会ではより一層、アンサンブル・ルヴァンの演奏を楽しむことができました。



思わず走り出してしまいそう



初めてのトランペット

